

平成4年度作況一覽

秋播小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれいしょ	てんさい
良	不良	やや不良	不良	やや良	平年並

I. 気象概況

平成3年9月から平成4年10月までの概況は次のとおりである。

平成3年9月：

平均気温は平年並で、降水量は少なく、日照時間は多かった。

10月：

平均気温はやや高く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

11月：

平均気温は平年並で、降水量は少なく、日照時間は中旬で少なかった。

12月：

平均気温は平年並で、降水量はやや少なく、日照時間は少なかった。

平成4年1月：

平均気温はかなり高く、降水量はやや少なく、日照時間は少なかった。

2月：

平均気温はかなり高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

3月：

平均気温はやや高く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

4月：

平均気温は中・下旬が低く、降水量は少なく、日照時間はかなり少なかった。

5月：

平均気温はやや低く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

6月：

平均気温はやや低く、降水量はやや少なく、日照時間はかなり少なかった。

7月：

平均気温はほぼ平年並で、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

8月：

平均気温は特に上旬がかなり低く、降水量は上旬に多く、下旬に少なく、日照時間はかなり少なかった。

9月：

平均気温は低く、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

10月：

平均気温は上・中旬はやや低いが、下旬は高く、降水量は平年並、日照時間は上・下旬は少なく、中旬は多かった。

以上、農耕期間(4月～10月)の気象を要約すると、積算平均気温は2950℃で平年(3068℃)より118℃低かった。降水量は759mmで平年(556mm)より203mm多かった。日照時間は946時間で平年(1299時間)よりかなり少なく、特に6月上・中旬と7月下旬～8月中旬が少なかった。

季節表

年次	根雪始 (3年.月.日)	根雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月.日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)	初霜 (月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (月.日)
本年	12. 7	4. 2	117	4.23	4. 9	5. 6	10.22	166	11. 1
平年	12. 4	4. 6	124	4.17	4.24	5. 1	10.16	165	10.31
比較	3	△4	△7	6	△15	5	6	1	1

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

農耕期間の積算値

項目 期間	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～ 10月	本年 2,950	3,894	1,985	759	946
	平年 3,068	4,135	1,989	556	1,299
	比較 △118	△241	△4	203	△353
5～ 9月	本年 2,478	3,137	1,799	629	665
	平年 2,594	3,341	1,840	397	950
	比較 △116	△204	△41	232	△285

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

II. 平成4年度の作況

1. 秋播小麦 平成4年度の作況:良

事由:播種は平年より1日遅い9月13日に行った。秋期の天候が平年並に推移したため、越冬前の生育は平年並であった。積雪期間は短かったが、全品種に紅色雪腐病、「チホクコムギ」に褐色雪腐病が散見された。起生後は低温、湿潤、寡照気味に推移したため生育は遅れ、茎数は多く、やや軟弱徒長気味に推移した。その結果、子実重は3品種とも平年より10%以上の多収を示した。品質については、「ホロシロコムギ」、「チホクコムギ」で千粒重、リットル重が平年より劣ったものの、食検等級は3品種とも平年並からやや優った。

以上により、平成4年度の作況は良である。

品種名 項目/年次		ホロシロコムギ			タクネコムギ			チホクコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(平3.月.日)		9.13	9.12	1	9.13	9.12	1	9.13	9.12	1
出芽期(平3.月.日)		9.21	9.19	2	9.21	9.19	2	9.21	9.19	2
出穂期(月.日)		6.14	6.8	6	6.4	6.1	3	6.15	6.8	7
成熟期(月.日)		7.29	7.21	8	7.2	7.13	7	7.29	7.21	8
草丈 (cm)	平3.10月20日	22	22	0	22	21	1	23	23	0
	5月20日	44	52	△8	43	51	△8	41	47	△6
	6月20日	96	103	△7	107	102	5	88	93	△5
茎数 (本/㎡)	5月20日	1389	949	440	1570	1012	558	1244	866	378
	6月20日	674	570	104	945	674	271	732	604	128
成熟期に おける	稈長(cm)	101	96	5	99	91	8	94	84	10
	穂長(cm)	8.3	8.6	△0.3	7.4	7.7	△0.3	7.1	7.3	△0.2
	穂数(本/㎡)	598	520	78	856	657	199	611	555	56
子実重(kg/10a)		555	499	56	485	432	53	533	465	68
リットル重(g)		731	763	△32	802	799	3	697	747	△50
千粒重(g)		42.8	45.6	△2.8	40.5	39.6	0.9	35.7	40.1	△4.4
品質(等級)		1	2上	—	1	2上	—	2上	2上	—
子実重平年対比(%)		111	100	11	112	100	12	115	100	15

注)平年値は前7か年中、昭和61年、昭和62年(各収穫年度)を除く5か年平均。

ただし、「チホクコムギ」の10月の草丈は平成元年～3年、5月および6月の草丈および茎数は昭和60年、63年、平成元年、3年の4か年平均。

2. 大豆 平成4年度の作況:不良

事由:播種期は5月18日で、平年より1日早かった。播種後適度な降雨に恵まれたため、出芽期は平年より1～2日早く、出芽揃いも良好であった。出芽後6月上・中旬は低温に推移したが、6月下旬から7月下旬にかけて気温は平年並かやや高く、適度の降雨にも恵まれたため、開花期は平年より「ユウヒメ」では3日、「ユウヅル」では2日早まった。開花後8月上・中旬は低温・曇天の日が続き、9月も気温は低く推移したため生育は遅れたが、10月に入ると気温はほぼ平年並に推移したため生育はかなり回復し、「ユウヒメ」は平年より1日遅く「ユウヅル」は平年より3日遅く、各々成熟期に達した。成熟期の主茎長は平年より長く、主茎節数も平年より多かったが、分枝数は平年をかなり下回った。子実重は「ユウヒメ」が298kg/10a、「ユウヅル」が296kg/10aで対平年比は各々90%、96%と平年を下回った。収量構成要素は、「ユウヒメ」は百粒重が平年より重かったが、着莢数が平年を大幅に下回った。一方「ユウヅル」は着莢数はほぼ平年並であったが、百粒重は平年を大幅に下回った。なお品質(検査等級)は「ユウヒメ」「ユウヅル」ともに平年とほぼ同じであった。

以上により、平成4年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	ユウヒメ			ユウヅル			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.18	5.19	△1	5.18	5.19	△1	
出芽期(月.日)	6.6	6.7	△1	6.5	6.7	△2	
開花期(月.日)	7.2	7.23	△3	7.28	7.3	△2	
成熟期(月.日)	10.7	10.6	1	10.18	10.15	3	
主茎長 (cm)	6月20日	7.8	8.9	△1.1	6.0	7.8	△1.8
	7月20日	35.0	31.7	3.3	30.7	28.4	2.3
	8月20日	52.7	50.0	2.7	72.9	65.4	7.5
	9月20日	55.7	50.0	5.7	76.4	64.2	12.2
	成熟期	56.3	50.2	6.1	76.1	63.3	12.8
主茎節数 (節)	6月20日	0.2	0.8	△0.6	0.2	0.8	△0.6
	7月20日	5.9	6.6	△0.7	6.6	6.3	0.3
	8月20日	11.3	12.6	△1.3	15.2	15.3	△0.1
	9月20日	11.5	12.9	△1.4	15.7	15.4	0.3
	成熟期	12.8	12.7	0.1	15.9	15.1	0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	3.7	3.6	0.1	1.7	2.2	△0.5
	8月20日	3.7	6.9	△3.2	2.2	6.1	△3.9
	9月20日	4.8	6.5	△1.7	3.1	5.7	△2.6
	成熟期	5.8	6.7	△0.9	3.3	5.5	△2.2
着莢数 (莢/株)	9月20日	45.6	68.7	△23.1	56.0	68.4	△12.0
	成熟期	48.0	64.2	△16.2	62.1	64.0	△2.2
一莢内粒数(粒)	1.91	1.97	△0.06	1.86	1.79	0.07	
子実重(kg/10a)	298	331	△33	296	307	△11	
百粒重(g)	45.7	42.0	3.7	37.6	42.2	△4.6	
虫喰率(%)	0.3	0.5	△0.2	0.3	0.6	△0.3	
品質(等級)	2下	3	—	2下	3上	—	
子実重平年対比(%)	90	100	△10	96	100	△4	

注) 平年値は前7か年中、昭和62年、63年を除く5か年平均。6月および7月の主茎節数は本葉数。

3. 小豆 平成4年度の作況: やや不良

事由: 播種は平年より2日遅い5月20日であったが、適度な土壌水分に恵まれ、出芽期は平年より2日早い6月7日であった。6月上・中旬の低温・寡照により、初期生育は停滞した。7月に入り天候の回復とともに生育もやや持ち直したが、開花期は平年より1日遅い7月27日であった。その後、8月上・中旬は天候が不順となり、成熟期は平年より6日遅い9月12日であった。成熟期における主茎長、主茎節数、分枝数および着莢数は平年値を下回ったが、一莢内粒数および百粒重は平年値をやや上回った。その結果、子実重は228kg/10aで平年対比97%となった。なお、品質(等級)は平年より劣った。以上により、平成4年度の作況はやや不良である。

品種名 項目/年次		エリモシヨウズ		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.20	5.18	2
出芽期(月.日)		6.7	6.9	△2
開花期(月.日)		7.27	7.26	△1
成熟期(月.日)		9.12	9.6	6
主茎長 (cm)	6月20日	3.1	3.6	△0.5
	7月20日	12.8	14.6	△1.8
	8月20日	29.5	43.4	△13.9
	成熟期	30.2	44.6	△14.4
主茎節数 (節)	8月20日	11.0	12.1	△1.1
	成熟期	10.2	11.9	△1.7
分枝数 (本/株)	7月20日	1.2	1.5	△0.3
	8月20日	0.9	3.0	△2.5
	成熟期	0.8	2.5	△1.7
着莢数 (莢/株)	8月20日	27.1	34.3	△6.8
	成熟期	33.9	39.4	△5.1
一莢内粒数(粒)		6.88	6.30	0.58
子実重(kg/10a)		228	235	△7
百粒重(g)		12.5	12.0	0.5
屑粒率(%)		1.1	2.1	△1.0
品質(等級)		3上	2上	—
子実重平年対比(%)		97	100	△3

(注) 平年値は前8か年中、昭和63年、平成元年(未成熟)、3年を除く5か年平均。

4. 菜豆 平成4年度の作況:不良

事由:播種期は平年より2日早い5月21日であった。播種後、降水量が多く、湿害のため出芽率は悪かったが出芽期はほぼ平年並であった。出芽期から開花期までは、日照不足に経過したため、出芽期の湿害とあわせて生育は平年に比べて著しく劣った。開花期以降も日照不足で降水量が多かったため、再び湿害を被り、登熟期の落葉が進み、成熟期はほぼ平年並となった。このため、成熟期の着莢数、一莢内粒数、百粒重は平年より少なく、子実重は116kg/10aで平年比47%で著しく少なく、また品質も平年よりやや劣った。
以上により、平成4年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次		改良早生大福		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.21	5.23	△2
出芽期(月.日)		6.12	6.11	1
開花期(月.日)		7.1	7.12	△2
成熟期(月.日)		9.4	9.3	1
主莖長 (cm)	6月20日	11.6	15.8	△4.2
	7月20日	148.0	226.0	△78
	8月20日	255.0	280.0	△25
	成熟期	241.0	275.0	34.0
主莖節数 (節)	7月20日	14.0	17.0	△3.0
	8月20日	20.5	21.1	△0.6
	成熟期	19.1	21.4	△2.3
分枝数 (本/株)	7月20日	1.3	3.8	△2.5
	8月20日	2.5	3.3	△0.8
	成熟期	2.0	2.9	△0.9
着莢数 (莢/株)	8月20日	21.3	33.9	△12.6
	成熟期	21.1	36.2	△15.1
一莢内粒数(粒)		3.36	4.29	△0.93
子実重(kg/10a)		116	246	△130
百粒重(g)		60.9	65.1	△4.2
屑粒率(%)		3.4	4.9	△1.5
品質(等級)		3	2	—
子実重平年対比(%)		47	100	△53

注)平年値は前7か年中、昭和60年、61年を除く5か年平均。

5. ばれいしょ 平成4年度の作況:やや良

事由:植付けは平年より1日遅い5月6日に行った。萌芽期はほぼ平年並であった。萌芽後は低温、寡照に経過したため、やや軟弱徒長気味の生育となったが、6月下旬の乾燥で生育が停滞し、「男爵薯」に不開花株が多くみられた。枯れ上がりは早く始まったが、その後の天候が低温、湿潤気味であったため枯凋が進まず、枯凋期は平年より遅く、特に中晩生の「農林1号」は顕著であった。その結果、上いも重は平年より8~15%高かったが、やや塊茎が小粒で、中以上いも重でみればほぼ平年並であった。でん粉価は平年より高かった。
以上により、平成4年度の作況はやや良である。

品種名 項目/年次		男爵薯			農林1号		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付け期(月.日)		5.6	5.5	1	5.6	5.5	1
萌芽期(月.日)		5.29	5.28	1	5.27	5.28	△1
開花期(月.日)		7.3	6.29	4	7.1	6.29	2
枯凋期(月.日)		9.4	8.26	9	10.9	9.17	22
莖長 (cm)	6月20日	29	28	1	34	29	5
	7月20日	41	37	4	54	56	△2
	8月20日	—	36	—	56	60	△4
莖数 (本/株)	6月20日	4.3	4.9	△0.6	4.7	5.2	△0.5
	7月20日	3.9	5.0	△1.1	4.5	5.3	△0.8
	8月20日	—	4.8	—	4.5	5.1	△0.6
上いも重(kg/10a)		3,743	3,253	490	5,024	4,651	373
でん粉価(%)		15.6	14.5	1.1	16.7	15.2	1.5
上いも重平年対比(%)		115	100	15	108	100	8
でん粉価平年対比(%)		108	100	8	110	100	10

注)平年値は前7か年中、昭和62年、平成元年を除く5か年平均。「上いも」は20g以上の塊茎である。

6. てんさい 平成4年度の作況: 平年並

事由: 播種期は平年並の4月3日、移植期は平年より1日早い5月7日であった。移植後の活着は比較的良好であった。6月下旬の干ばつにより、葉色の黄化や生育の停滞がみられたが、7月上旬の高温、やや多雨により生育は回復した。その後も低温、多雨、寡照に推移したため、湿害のためか葉色がやや黄化した時期もみられたが、8月中旬まではおおむね順調に推移した。8が告げ順位口外して低温、多雨、少照に経過したため、生育特に根部の肥大が停滞した。しかし、10月に入ってから、比較的天候に恵まれたため生育は順調に経過した。

以上のような生育経過により、10aあたり根重は7.81tで平年比96%と劣ったが、根中糖分は17.04%で平年比103%で平年を上回った。糖量は1,331kg/10aで、平年比100%で平年並であった。

以上により、平成4年度の作況は平年並である。

品種名(栽培法) 項目/年次		モノヒカリ(移植)		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		4.3	4.3	0
移植期(月.日)		5.7	5.8	△1
収穫期(月.日)		10.14	10.15	△1
草丈 (cm)	5月20日	5.0	5.1	△0.1
	6月20日	30.0	29.5	0.5
	7月20日	46.2	53.0	△6.8
	8月20日	60.9	57.0	3.9
	9月20日	58.6	57.2	1.4
	収穫期	58.2	56.7	1.5
葉数 (枚)	5月20日	3.7	3.0	0.7
	6月20日	10.4	10.7	△0.3
	7月20日	22.2	20.4	1.8
	8月20日	26.8	25.9	0.9
	9月20日	26.1	29.1	△3.0
	収穫期	22.3	28.0	△5.7
根周 (cm)	7月20日	24.0	23.1	0.9
	8月20日	32.9	32.3	0.6
	9月20日	35.6	37.3	△1.7
	収穫期	37.0	39.0	△2.0
茎葉重(t/10a)		4.04	5.31	△1.27
根重(t/10a)		7.81	8.10	△0.29
根中糖分(%)		17.04	16.48	0.56
糖量(t/10a)		1,331	1,335	△4
根重平年対比(%)		96	100	△4
根中糖分平年対比(%)		103	100	3
糖量平年対比(%)		100	100	0

注) 平年値は前7か年中、昭和62年、平成3年を除く5か年平均。